

協議事項（１）前回委員会における修正事項について

（前） 学校法人産業技術学園

学校法人産業技術学園は、全国で専門学校等を運営する滋慶学園グループの構成法人である。滋慶学園グループは、専修学校制度が施行された昭和五十一年（一九七六）年、新大阪歯科技工士学院（現・新大阪歯科技工士専門学校）の開校に始まり、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことを使命として掲げ、大阪や東京に専門学校六校と医療法人を運営し、多くの人材を産業界に送り出していた。

恵庭市からの積極的な誘致を受けた同グループは、昭和六十二年九月、学校法人産業技術学園を設立、翌六十三年四月、恵み野に北海道ハイテクノロジ専門学校を開校した。その後、同校の設置科目を充実させる中で、学科を独立させて北海道メディカル・スポーツ専門学校、北海道エコ・動物自然専門学校を開校した。

また、同学園は運営する三校がもつ資源や情報を最大限に生かし、平成二十六（二〇一四）年四月から、恵庭市恵み野こどもの集う場所「フーレめぐみの」の指定管理を恵庭市から受託してオープンさせ、二十八年二月には、地方創生に向けた協力体制強化のため、恵庭市との間で包括連携協定を締結した。また、地域の清掃活動、防災訓練、交通安全週間における協力など、地域活動にも積極的に参加し、地域に密着した教育を実践している。

同学園が運営する三校の概要は次のとおりである。

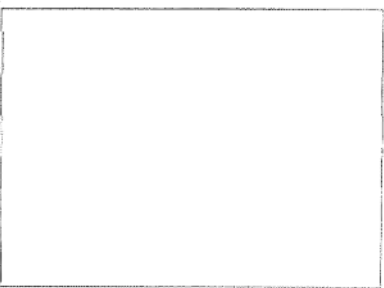
北海道ハイテクノロジ専門学校

〔所在地〕 恵み野北二丁目二番二

昭和六十二年十二月、学校法人産業技術学園による専門学校設立が北海道の認可を得、翌六十三年二月に恵み野に校舎が完成、同年四月、本校が開校した。その目指すところは、社会や産業構造の変革・進展に応じて要望される即戦力の人材養成であり、「実学教育」「人間教育」「国際教育」を建学の三本柱として、学生や保護者からの信頼はもちろん、高等学校、業界、地域からの信頼を得ることである。開校当時の開設科は、生命工学校術科・医用電子科・人工知能科・秘書科の四学科であった。

平成元（一九八九）年の薬業科、二年の園芸工学校術科、情報処理科をはじめ、以後も社会や時代の要請に応じた教育カリキュラムの新設、改善を重ねている。学科の一部は、平成十五年に北海道エコ・コミュニケーション専門学校（現・北海道エコ・動物自然専門学校）、二十五年に北海道メディカル・スポーツ専門学校として分離・独立した。平成二十六年には、本校の二一学科が文部科学省の職業実践専門課程に認定されている。

平成三十年現在、バイオテクノロジ学科（二専攻）、ＩＴメディア学科（六専攻）、医療事務学科、視能訓練士学科、歯科衛生士学科、義肢装具士学科、看護学科、臨床工学技士学科、救急救命士学科、子ども保育学科（近畿大学九州短期大学と併修）、キャリアデザイン・公務員学科、日本語学科の二一学科を擁しており、道内初のドローン専攻を新設するなど、常に時代に先駆けた教育内容を展開している。



北海道ハイテクノロジ専門学校

平成十八年には陸上競技のクラブチーム「北海道ハイテクスリートクラブ（以下、「北海道ハイテクＡＣ」）」を設立、北京、ロンドン、リオデジャネイロオリンピック出場の前島千里（平成二十九年プロ転向により退団）をはじめ、北風沙織（陸上）、勢藤優花（ジャンプ）などのトップアスリートが在籍、平成十八年にはインドア・スタジアム、二十二年にハイテクアリーナを設置するなど、最新の練習環境を整備している。平成二十五年から北海道ハイテクＡＣレディース陸上競技選手権大会を主催しており、全道はじめ日本女子陸上のレベル向上に寄与している。

（後）

学校法人産業技術学園

学校法人産業技術学園は、全国で専門学校等を運営する滋慶学園グループの構成法人である。滋慶学園グループは、専修学校制度が施行された昭和五十一年（一九七六）年、新大阪歯科技工士学院（現・新大阪歯科技工士専門学校）の開校に始まり、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことを使命として掲げ、大阪や東京に専門学校六校と医療法人を運営している。

恵庭市からの積極的な誘致を受けた同グループは、昭和六十二年九月、学校法人産業技術学園を設立、翌六十三年四月、恵み野に北海道ハイテクノロジ専門学校を開校した。その目指すところは、社会や産業構造の変革・進展に応じて要望される即戦力の人材養成であり、「実学教育」「人間教育」「国際教育」を建学の三本柱として、学生や保護者からの信頼はもちろん、高等学校、業界、地域からの信頼を得ることである。

開校当時は、生命工学校術科・医用電子科・人工知能科・秘書科の四学科であったが、常に時代に先駆けた教育内容を展開し、設置学科を充実させていった。平成十五（二〇〇三）年四月、ベクトルビジネス科を分離独立して「北海道エコ・コミュニケーション専門学校」（平成二十四年「北海道エコ・動物自然専門学校」に改称）を開校し、道内の専門学校で唯一の学内動物飼育施設「エコ動物園」を設置するなど、動物たちと実際に触れ合いながら学べる環境を整備、人と自然と動物の共生を目指す教育理念を推進している。

平成十八年には陸上競技のクラブチーム「北海道ハイテクスリートクラブ」を設立、北京、ロンドン、リオデジャネイロオリンピック出場の前島千里（陸上・平成二十九年退団）をはじめ、北風沙織（陸上）、勢藤優花（スキー・ジャンプ）などが在籍している。平成十八年にインドア・スタジアム、二十二年にハイテクアリーナを設置した。また、地域・学校・スポーツクラブを一体化した総合型地域スポーツクラブ「北海道ハイテクスリートクラブアカデミー」の運営を開始した。これらの活動を背景とし、平成二十五年四月にはスポーツ学科、柔道整復師学科、鍼灸学科を移設し、「北海道メディカル・スポーツ専門学校」を開校した。学校長に旭川医科大学名誉教授・塩野博、副校長に長野オリンピック・スキージャンプ金メダリスト・船木和喜を迎え、北海道が推進する「北海道スポーツ推進計画」実現に貢献する、医療国家資格とスポーツ資格を併せ持つ「治療のエキスパート」養成を目指している。こうした養成機関は道内初で、アスレティックトレーナーの資格と、鍼師・灸師や柔道整復師の医療国家資格の同時取得が可能となっている。

同学園が運営する三校のもつ資源や情報を最大限に生かし、平成二十六年四月から、恵庭市恵み野こどもの集う場所「フーレめぐみの」の指定管理を恵庭市から受託してオープンさせ、二十八年二月には、地方創生に向けた協力体制強化のため、恵庭市との間で包括連携協定を締結した。また、地域の清掃活動、防災訓練、交通安全週間における協力など、地域活動にも積極的に参加し、地域に密着した教育を実践している。

三校の所在地と平成三十年現在の開設学科は次のとおりである。
・北海道ハイテクノロジ専門学校（恵み野北二丁目二番二）
バイオテクノロジ学科（二専攻）、動物科学科、ＩＴメディア学科（六専攻）、医療事務学科、診療情報管理士専攻科、視能訓練士学科、歯科衛生士学科、義肢装具士学科、看護学科、臨床工学技士学科、救急救命士学科、子ども保育学科（近畿大学九州短期大学と併修）、キャリアデザイン・公務員学科、日本語学科の一四学科

・北海道エコ・動物自然専門学校（恵み野西五丁目二〇番四）
動物自然学科（三専攻）、動物看護・ペット学科（三専攻）の二学科

・北海道メディカル・スポーツ専門学校（恵み野北二丁目二番二）
スポーツトレーナー学科（五専攻）、柔道整復師学科、鍼灸師学科の三学科

産学官連携にも熱心に取り組み、平成十五年からは国立研究開発法人産業技術総合研究所との連携を実現させ、本学の学生たちが先端技術の現場で研修を行っている。また、恵庭市との連携事業の一例として、市特産物を使用して食品を開発する「ゆめちからプロジェクト」や「恵庭産トマトプロジェクト」が挙げられる。安全性を第一に、成分・機能分析、加工・商品化までを一貫して行う同プロジェクトは、恵庭市や関係団体から高い評価を得ている。ほかにも「フーレめぐみ」では、同学のコンテンツを生かした体験型イベント「チャレンジキッズ」を開催するなど、地域貢献に積極的に取り組んでいる。

〔北海道エコ・動物自然専門学校〕

〔所在地〕 恵み野西五丁目一〇番四

本校は、北海道ハイテクノロジ専門学校在平成十（一九九八）年四月に新設されたペットビジネス科が分離独立し、十五年四月、北海道エコ・コミュニケーション専門学校として開校した。開校時の開設科はペットビジネス学科とアウトドア学科で、実習室に業界の現場で実際に使われている最新設備を導入したほか、道内の専門学校で唯一の学内動物飼育施設「エコ動物園」を設置するなど、動物たちと実際に触れ合いながら学べる環境を整えた。

平成十八年にはアウトドア学科を観光サービス学科に改称するとともに、ペットビジネス専攻科を開設、二十三年にペットビジネス学科を、ペット学科、動物看護師学科、動物自然学科と分化・改称し、学科の充実を図った。

平成二十四年には、動物や自然に関連する教育に特化するため、

「北海道エコ・動物自然専門学校」に改称し、二十六年にペット

学科、動物看護師学科、動物自然学科が職業実践専門課程に認定され

るなど、卒業後、すぐに第一線で活躍できる実践力を身につける体制が整えられた。平成

三十年現在、動物自然学科（三専攻）、動物看護・ペット学科（三

専攻）を擁している。



北海道エコ・動物自然専門学校

また、平成二十六年に傷病鳥獣保護収容事業協力者に登録したほか、二十七年には野生鳥獣リハビリ施設を新設し、北海道と連携して傷病鳥獣保護施設に登録して恵庭市、千歳市、北広島市からの傷病鳥獣の受け入れを行い、北海道環境マネージメントシステムスタンダード認証校となるなど、人と自然と動物の共生を日指す教育理念を推進している。

〔北海道メディカル・スポーツ専門学校〕

〔所在地〕 恵み野北二丁目一二番一

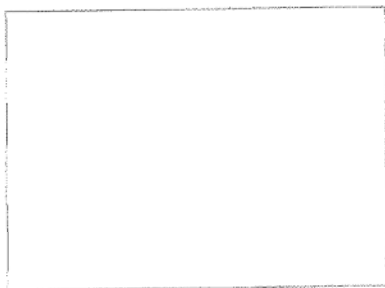
本校は、北海道ハイテクノロジ専門学校在に設置されていたスポーツ学科、柔道整復師学科、鍼灸学科を移設し、平成二十五（二〇一三）年四月に開校した。学校長に旭川医科大学名誉教授・塩野博、副校長に長野オリンピック・スキージャンプ金メダリスト・船木和喜を迎え、各学科にプロフェッショナルな講師陣を配し、北海道が推進する「北海道スポーツ推進計画」の実現に貢献する、医療国家資格とスポーツ資格を併せ持つ「治療のできるトレーナー」養成を目指している。

こうした養成機関は道内初で、アスレティックトレーナーなどのスポーツ系の資格と、鍼師・灸師や柔道整復師の医療国家資格の同時取得が可能である。これにより、スポーツ界をはじめとする各業界で活躍できる即戦力を身につけることができ、多くの卒業生が国内外のスポーツ分野で活躍している。平成三十年現在、スポーツトレーナー学科（五専攻）、柔道整復師学科、鍼灸師学

科を擁している。

課外活動では、学生がプロトレーナーやアスリートとともに実践的な知識を身につける「アスリートサポートクラブ」を設置し、ノーザンホースパークマラソン、NHK杯ジャンプ大会、北海道高等学校陸上競技大会等において、トレーナー活動を通して各種競技をサポートしている。スポーツ部の活動も盛んで、各大会で大きな成果を上げている。

また、学校のノウハウであるスポーツ・健康支援プログラムを生かし、アスリートと学生が地域・学校・スポーツクラブを一体化した総合型地域スポーツクラブ「北海道ハイテクアスリートクラブアカデミー」を運営しているほか、地域のスポーツイベントの補助要員やサポートメンバーとしての協力を行うなど、恵庭地域のスポーツ振興の一翼を担っている。



北海道メディカル・スポーツ専門学校